

# 令和三年度 入学試験（公募推薦）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の【1】～【5】に答えなさい。

これを異変と呼ぶのが適當かどうか知らないが、今年の夏から秋にかけて、思わぬところで思わぬものを見たので、仮に異変としておく。いずれも昆虫の話である。

夏、八月の東京では、都会のただ中にも、みんなん蟬がよく鳴いている。京都なら、東山の清水あたりに行けば聞こえるが、比叡、愛宕の山中に聞くみんなん蟬の声は、林間の小暗い空気にしみ通るようで、格別に印象的なものだ。しかし、この蟬が京都の町なかで鳴くということは絶えてなかった。数年まえ、テレビドラマを見ていたら、壬生の新撰組の屯所でみんなん蟬が鳴いている場面があり、【⑦】台本作者もディレクターも、皆さん東京のお方である、と思つたりした。

ところが、八月のおわり近くに、庭でみんなん蟬が鳴いた。私は町の真中、六角堂のへそ石の少々南方に住んでいる。こんな町なかにみんなん蟬は、まず私としては【＊】の出来事。思わず窓にかけ寄り、声のするあたりをチュウシせずにはいられなかつた。

みんなん蟬は櫻の木にとまって鳴いていた。二日間、夕暮れ近くに蟬は鳴いた。油蟬、つくつく法師も鳴っているが、これは例年どおり。三日目に、みんなん蟬がすぐ目につく枝にとまって鳴くので、私はこの珍物を写真にとつた。

だれかが山で捕えてきたのをにがしたのかもしれないと考えもしたが、蟬は大体が弱い昆虫であつて、捕えられて数時間もすれば、もう鳴くほどの元気は失っている。それに、虫の世界では、鳴かない雌よりも雄のほうがさらにキヨジヤクにできている。みんなん蟬はどうもこのあたりで発生したような気がする。【①】、樹木の移植のときに根の土にまじつてきた幼虫が育ったのか、あるいは分布に多少の変動が起こりつつあって、みんなん蟬が関西でも平地に降りてきて発生する傾向を見せているのか。私の関心は来年以降につなぎとめられたカッコウだ。そういうえば、この夏、御所でみんなん蟬を聞いたことはある。

もう一つは、ついこのあいだのこと。十月三日のひる前、庭の藤袴の花を二階から見下ろしていると、円く大きな蝶が、ふわりと花にとまつた。ひょろ長く伸びた藤袴の茎が【④】。ちょうど、雲が切れて陽が射し、あたりが明るくなっている。その蝶がアサギマダラなのに気付いたとき、私は階段をころがるように降りていた。

恥をいうようだが、少年時代には蝶の採集に夢中で、ずいぶんセッショウをかさねた。その頃の目の働きが残存していて、今でも蝶のとぶのを見ると反射的にその蝶の名と、ついでに食草の名を思い出すことがある。

それについて、こんな町の真中、ビルの谷間に、秋の十月にもなつて、アサギマダラが飛来したというのも、私はやはり【＊】の一珍事であった。翅【はね】を閉じて藤袴の葉にぶら下がっているのを、【⑤】観察したのだから、これをうたがうのは私の存在をうたがうにひとしい。

私は、むかし同じように蝶に熱中した友人を家までたずねていった。留守なので置き手紙をしたら、きのう返事が届いた。彼は冗談と思つたらしい。ぼくも白髪がふえたが、君もマダラが見えるらしいな、ご同慶、などと書いているにすぎなかつた。

（杉本秀太郎『虫の異変』）

【1】 二重傍線部ⒶⒷの漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問1】

- 1 Ⓐ ①とんしょ ②つめしょ ③すみしょ ④きよしょ ⑤たむしょ  
2 Ⓑ ①ふじばさみ ②ふじごろも ③ふじばかま ④ふじまたぎ ⑤ふじぞろえ

【2】

- 空欄ア～エに該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。
- |   |    |    |      |      |
|---|----|----|------|------|
| ⑥ | ⑤  | ④  | ③    | ⑦    |
| ⑩ | ⑨  | ⑧  | ⑥    | ②    |
| d | c  | b  | a    | ①    |
| ① | 各好 | 恰好 | 中視   | 虫視   |
| ② | 折生 | 角好 | 去弱   | 居弱   |
| ③ | 切生 | 恰好 | 裾弱   | 抛弱   |
| ④ | 殺生 | 角好 | 虚弱   | 柱視   |
| ⑤ | 刹生 | 拵好 | 確好   | とすれば |
| ⑥ |    | 好  | たとえば | なぜなら |
| ⑦ |    |    | なるほど | たとく  |
| ⑧ |    |    | おおむね | ほどなく |
| ⑨ |    |    | ますます | ます   |
| ⑩ |    |    | まとより | そのため |
| ⑪ |    |    | わんだ  | まがつた |
| ⑫ |    |    | がんだ  | ゆらいだ |
| ⑬ |    |    | わんだ  | かしいだ |
| ⑭ |    |    | じわじわ | もんもん |
| ⑮ |    |    | じわじわ | しみじみ |
| ⑯ |    |    | つくづく | つくづく |
| ⑰ |    |    | しとしと | しとしと |
| ⑱ |    |    | じわじわ | じわじわ |

【解答欄は問③～⑥】

【3】 傍線部ア～エの漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問⑦～⑩】

- |   |    |    |      |      |
|---|----|----|------|------|
| ⑩ | ⑨  | ⑧  | ⑦    | ⑥    |
| d | c  | b  | a    | ①    |
| ① | 窓生 | 折生 | 注視   | 註視   |
| ② | ③  | ④  | ②    | ③    |
| ③ | 切生 | 恰好 | 中視   | 虫視   |
| ④ | 殺生 | 角好 | 去弱   | 居弱   |
| ⑤ | 刹生 | 拵好 | 裾弱   | 抛弱   |
| ⑥ |    | 好  | 虚弱   | 柱視   |
| ⑦ |    |    | とすれば | なぜなら |
| ⑧ |    |    | なるほど | たとく  |
| ⑨ |    |    | ますます | ます   |
| ⑩ |    |    | まとより | ため   |
| ⑪ |    |    | わんだ  | まがつた |
| ⑫ |    |    | がんだ  | ゆらいだ |
| ⑬ |    |    | わんだ  | かしいだ |
| ⑭ |    |    | じわじわ | もんもん |
| ⑮ |    |    | じわじわ | しみじみ |
| ⑯ |    |    | つくづく | つくづく |
| ⑰ |    |    | しとしと | しとしと |
| ⑱ |    |    | じわじわ | じわじわ |

【4】 空欄\*と\*\*には同じ語が入ります。正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問⑦～⑩】

- |   |      |      |      |      |
|---|------|------|------|------|
| ⑪ | ⑩    | ⑨    | ⑧    | ⑦    |
| ⑫ | ⑬    | ⑭    | ⑮    | ⑯    |
| ① | 前後不覚 | 一氣呵成 | 前代未聞 | 一期一会 |
| ② |      |      |      | 絶体絶命 |

【5】 波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問⑫】

- 波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。
- 【解答欄は問⑫】
- ① 残念だが、信じてもらえないのも仕方のないことかもしれない、という思い。  
 ② こんなことより、年取ったお互いの健康にもっと気を遣うべきなのかもしれない、という思い。  
 ③ お互い、それなりに元気なことが確認できたわけだから、それが何よりもかも、という思い。  
 ④ 次回はさらに確実な証拠を持ってきて、彼を信じさせてやらなければ、という思い。  
 ⑤ いつもならすぐに話に乗ってきたはずなのに、何かあったのだろうかと、落ち着かない思い。

[12]

二次の文章を読んで、後の【6】～【10】に答えなさい。

私は娘の帰りを待っていた。行くときから都合で遅くなるとわかっていたので、ちゃんと送つてもらう手筈も

(a) おいたし、心配することはちょっともないのだけれど、でももう十一時に近かった。近処もまた今夜はやばやと静かになってしまって、気温はぐっと落ちていた。部屋のなかでこおろきが啼いている。小簾笥の上に電話帳や新聞を積みかねてある、その蔭にいるらしいのだが、まるで私という生きものが一つ部屋のなかにいることを認めていない \* で、しきりと啼いている。私は娘の帰りをただ待っているので別に案じているというのでもなくせに、そろそろ女親の細い神経がピンと張りはじめていた。雨戸の内外に夜ふけの感じがこめていた。

びりりりり、電話が鳴った。どきっとして膝の上の猫をほうりのけて起つた。

「もしもし。」

「や、どうも今夜は、ばあさんが御馳走さまになりまして、——」

「は？」

「まあだ戻らんもので。なあに遅いのはかまわんのですが、あれは足もとが悪いもので、ははは、いくらか案じられましてな。」

「もしもし、あのう……」

「いやなあに、ばあさん口は達者でもなんにしても齡なもんで。」

「もしもし、ちょっと。おまちがいのように思いますが、——」

「は？ や、こりや、こりや。そちら中村さんじゃありませんので？」

とたんに私の頭の上の柱時計が、びんびんと打ちだした。

「こちらは小石川の\*\*番ですが。」

「は？ え？ 大塚の中村さんと違いますか。」

「大塚は先日から局番号がかわりましたが。」

「はあそうですか。これはなんとも迂闊でした。はあ、いや。ただいま鳴ったのは十一時ですか？」

私は (ア) おつかぶせるようにつけ足した。「いえ、この時計ちと進んでおりますから、まだ十時のうちです。きつともうじき御無事にお帰りになるでしょうから、御心配なさいませんでも。」

「はあ、御親切にどうも。夜分遅く失礼しました。」

すわると、すぐまた猫が膝へ來たし、(c) 私を認知して、うかがつて短く啼きはじめている。いかにも年寄年寄した、こせつかないものの言いぶりだったが、電話が通じるやいなや対手あいてをたしかめようともせず、自分の名を云いもせず、いきなり話の中心へはいって行くあの気短かさには、老妻を案じる気もちがあふれていた。どんなおじいさん・おばあさんなのか、連れ添つて何十年になるのか。いや、しかしそんなことはどうでもいい。今夜のこの冷え冷えとした晩、どこかのおじいさんがおばあさんの帰りを気づかって待ちかねていると思えば、そこからしみじみ秋めいた情感が流れてくる。鏡がなくても私は自分の顔が (イ) いるのがわかつた。

夜なかの電話はほとんど大部分がまちがいで、それもきまつて跡味のよくない電話にきまつていて見ていい。と知っていても、ほとんどその都度なにかぎくとさせられて受話器を取る。「ちえつ、まちがつていやがら。」——がちゃん！ というのもあれば、「おれだ。これから行くけどいいな？」などと、あきらかに酔つているのもある。まちがいでも今夜のような爽やかなものは、たぶん一度とないだろう。

【6】

空欄ア①に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 13 14】

- 13 ①わざわざ ②しきりに ③すかさず ④あわてて ⑤かさねて  
 ①なごめいて ②はなやいで ③おちついて ④くつろいで ⑤やわらいで

【7】 傍線部「手筈も」に続く(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 15】

- 15 (a) ①つけて ②きって ③しめて ④まいて ⑤うって

【8】 傍線部「今度は」に続く(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問 16】

- 16 (b) ①のびのびと ②あきらかに ③あらためて ④ことさらに ⑤やすやすと

【9】 空欄\*に該当する語として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 17】

- 17 ①高楊枝 ②高枕 ③高調子 ④高軒 ⑤高飛車

【10】 波線部のように記した筆者の思いとして、ふさわしいと考えられるものを、①～⑥から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 18】

- 18 ①一本のまちがい電話からも、人生の実に様々なことが垣間見えるものだ、という思い。  
 ②老夫婦の深い愛情に触れることができた幸せと、一人の穏やかな日々が続いてほしい、という思い。  
 ③おじいさんと同じくらい、自分でもおばあさんの無事を祈ることができよかったです、という思い。  
 ④自分もまちがい電話をした時には、先方を不愉快にさせないよう、気をつけねば、という思い。  
 ⑤おばあさんはきっと、無事に帰宅するに違いない、そうあってほしい、という思い。

三次の問【11】～【13】の文章中、カタカナで記された言葉の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【11】「起こったことの全てを、ツマビらかにする時がきた。」【解答欄は問【19】】

- 【19】  
①精      ②実      ③相      ④細      ⑤詳

【12】「その考え方自体、もはやキシヨウな存在と言える。」【解答欄は問【20】】

- 【20】  
①奇少      ②希少      ③貴少      ④起少      ⑤基少

【13】「この仕事に、経験の浅い彼では、いかにもコロモトない。」【解答欄は問【21】】

- 【21】  
①心許      ②心元      ③心下      ④心素      ⑤心求

四 次の問【14】～【18】の表現のなかの□に用いる言葉としてふさわしいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【14】「結果的に、□を飲まされることになった。」【解答欄は問【22】】

- 【22】  
①重湯      ②煮え湯      ③産湯

【15】「勝負は、□をはくまで分からぬ。」【解答欄は問【23】】

- 【23】  
①草鞋      ②雪駄      ③草履

【16】「ついに、彼の□に降ることになる。」【解答欄は問【24】】

- 【24】  
①傘下      ②後門      ③軍門

【17】「彼女は常に、流れに□さす道を選んできた。」【解答欄は問【25】】

- 【25】  
①棹      ②棒

⑤槍

【18】「まさに、夢か□か、の状態だ。」【解答欄は問【26】】

- 【26】  
①朝      ②芒  
④現      ③古  
⑤曙

五 次の問【19】～【23】の作品と作者の組み合わせで、正しくないものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問【27】】

- |              |       |
|--------------|-------|
| ①『安宅家の人々』    | 吉屋信子  |
| ②『橋のない川』     | 住井すゑ  |
| ③『放浪記』       | 林美美子  |
| ④『ジョゼと虎と魚たち』 | 時実新子  |
| ⑤『恍惚の人』      | 有吉佐和子 |

【解答欄は問【28】】

- |         |       |
|---------|-------|
| ①『浮雲』   | 二葉亭四迷 |
| ②『雁の寺』  | 水上勉   |
| ③『檸檬』   | 梶井基次郎 |
| ④『点と線』  | 松本清張  |
| ⑤『金色夜叉』 | 泉鏡花   |

【解答欄は問【29】】

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| ①『車輪の下』       | ヘルマン・ヘッセ             |
| ②『カラマーゾフの兄弟』  | レフ・トルストイ             |
| ③『ペスト』        | アルベール・カミュ            |
| ④『高慢と偏見』      | ジェーン・オースティン          |
| ⑤『ライ麦畑でつかまえて』 | ジエーローム・デイヴィッド・サリンジャー |

【解答欄は問【30】】

- |             |      |
|-------------|------|
| ①『注文の多い料理店』 | 宮沢賢治 |
| ②『ビルマの豊饒』   | 竹山道雄 |
| ③『あすなろ物語』   | 佐藤春夫 |
| ④『眞実一路』     | 山本有三 |
| ⑤『一房の葡萄』    | 有島武郎 |

【解答欄は問【31】】

- |              |                |
|--------------|----------------|
| ①『大きな森の小さな家』 | ジーン・ウェブスター     |
| ②『長くつしたのピッピ』 | アストリッド・リンドグレーン |
| ③『エルマーの冒険』   | ルース・スタイルス・ガネット |
| ④『はなのすきなうし』  | マンロー・リーフ       |
| ⑤『オズの魔法使い』   | ライマン・ランク・ボーム   |

【23】

31

【22】

30

【21】

29

【20】

28

【19】

27